

【ものづくり 人づくり 地域づくり】春の組合員討議 (表紙)、子ども健康調査中間報告 (中面)

春の組合員一斉討議!

今週より2013年度活動方針の提案資料を配布しています。
アンケートによる意見集約とあわせて、地区別の組合員懇談会にご参加を!

私たちの暮らし方、価値観、本当の豊かさを問われた震災・原発事故

2013 年度、わたしたちみんなで取り組む活動

さあ、いよいよ本格的に

「くらしの見直し・総点検」 をはじめよう!



原発事故被ばくに直面し、食の安全と子どもたちを守ることを組合の最重要事項にして取り組んだ2年。

さあ、いよいよその原点だった私たち自身の暮らし方、考え方、浪費、ムダ・ムリ、豊かさへの価値観について問い直し、みんなで暮らしのあり方の総点検をはじめめることを今年の課題にすることを理事会として提案します。

計画的な買い物、食材のやりくり、まとめたの下ごしらえ、冷蔵庫の上手な整理法、ゴミの削減、ストックの乾物類、冷暖房の抑制、電気・水道・自動車などのエネルギー使用の点検、保険の見直し、家庭菜園や生産者と提携した自給などなど。そして緊急時の家族・家庭の備え・・・。

消費者組合員一生産者一生協職員みんなが協同して取り組むことを挙げ、くらしの抜本的見直し5カ年計画のスタートを切りたいと思います。

第40回 通常総代会開催公告

2013年4月8日 常総生協理事会

【日時】2013年6月15日(土)

9:30 ~ 12:00

【場所】レイクサイドつくば

(つくば市下岩崎)

【議題】

第1号議案 2012年度活動報告
決算報告承認の件

第2号議案 2013年度活動方針
予算案承認の件

第3号議案 役員補充の件

第4号議案 役員選挙管理委員任命の件

第5号議案 議案議決効力発生の件

【今月の予定】

【内外の催し】

- 4. 1 (月) 東海第2 訴訟団福島視察、現地交流会
- 4. 7 (日) 脱原発サミット in いばらき (東海村)
- 4. 13 (土) テレジンの子どもたち連続講座 (土浦一高)
「収容所テレジンの子どもたちは戦後どう生きたか?」
- 4. 17 (木) 東海第2 原発差止訴訟第2 回口頭弁論
(水戸地裁 301 号大法廷)
- 4. 21 (日) 「被ばくから2年、どう生きる? 茨城・福島の人たち」
諦めない・忘れない・声をあげよう、4.21 ディスカッション
小川仙月さんが問題提起 (つくば市春日交流センター)

【生協運営】

- 4. 6 (土) 脱原発とくらし見直し委員会 (本部)
- 4. 8 (月) 総代会公告 (日時・場所・議題)
- 4. 8 ~ 2013 年度活動方針 春の組合員一斉討議開始
- 4. 15 (月) 平和の集い委員会 (本部)
- 4. 19 (金) 牛久地区組合員懇談会
- 4. 22 (月) つくば地区組合員懇談会 (小野川公民会)
- 4. 23 (火) 我孫子地区組合員懇談会
- 4. 24 (水) 2012 年度総代さんの懇談会 (本部)
- 4. 26 (金) 第12 回常総生協理事会

【常総生協 子ども健康調査中間報告】

ようやくベースラインの調査がはじまったばかり

チェルノブイリ後の低線量長期被ばくの健康影響では日本のデータは世界の貴重なデータになる。
その只中にいる私たちの子ら

これから毎年の継続的な検査と早期発見・対処へ

○心配される福島の子どもたち

最初の福島県民健康調査では1名の子どもに甲状腺がんが見つかりましたが、この2月に2012年度調査後半分(3万8000人分)の結果が発表され、新たに2名の子どもに甲状腺がんが判明。甲状腺がんの疑いがあるとされた子も7名もいることがわかりました。

子どもの甲状腺がんは極めてまれで「100万人に1人」とされてきた中で、福島の結果は3万8000人に3名、疑い例ががんだったら「3,800人に1人」と早い時期にすでに高い率で甲状腺がん

が発生していることを示し、たいへん不安が増しました。

○常総生協の子どもたち

そんな中で常総生協では、組合員による基金や他団体からの支援を頂き、昨年末より「常総生協こども健康調査」がはじまりました。

昨年末、血液検査は終了し、甲状腺エコー検査は予定者の約半数、尿中のセシウム検査もまだ1/4の進捗ですが、全体の状況を心配されているお母さんもいることから「中間報告」という形で報告させていただきます。

○常総生協こども健康調査 中間報告 (まとめ)

常総生協の子どもたちの健康調査結果	甲状腺エコー検査	20%の子にのう胞・結節あり。
	血液検査 (中間報告)	17%の子にリンパ球の異型あり。 好中球の割合低め。リンパ球の割合高め。
	尿中セシウム検査 (中間報告)	76%の子の尿からセシウム検知。尿中セシウム濃度が定量できたのは46%。但し、皆1ベクレル以下。 (最低 0.17 ~ 最高 0.83 ベクレル Bq/kg)

○常総生協こども健康調査 中間報告 (詳細)

検査項目	検査数	結 果				
甲状腺エコー検査	(141名中) 76名終了 (54%)	(検査機関) 牛尾病院 (龍ヶ崎市)、手賀の杜クリニック (我孫子市)				
		A1判定	結節や嚢胞を認めなかったもの	60人	(80.8%)	
		A2判定	5mm以下の結節、20mm以下の嚢胞を認めたもの	14人	(18.4%)	
		B判定	5.1mm以上の結節、20.1mm以上の嚢胞を認めたもの	1人	(1.4%)	
		C判定	甲状腺の状態から判断して直ちに二次検査を要するもの	(1人*)	(1.4%)	
		(合計)		76人	(100%)	
※C判定の1名は血液検査から見てC判定とされ、直ちに血液の再検査をした結果、異常は認められなかった。						
血液検査	218名 全員終了	(検査機関) 江東微生物研究所				
		白血球数	平均値は 6,950 個 / μ L で、標準値内でやや高め。			
		血液像	好中球の割合：平均49%で標準値 48-61% 内で、低め。 リンパ球の割合：平均42%で標準値 25-45% 内で、高め。			
		異型リンパ	17%の子にリンパ球の異型あり。但し異型の割合は3%以内。			
		甲状腺刺激ホルモン	TSH：平均 2.62 μ IU/ml。標準値 0.5 ~ 5.0 を超えた子は 6 人 (3%)。			
甲状腺ホルモン	FT4：全員標準値内。 FT3：24 名 (11%) がわずかに標準値を超える。					
尿中セシウム検査	(146名中) 39名終了 (27%)	(検査方法) 蓄尿2リットル、生協の Ge 半導体検査機にて 8 時間測定 検出限界：0.132 ~ 0.230 Bq/kg				
		結 果	検 出	18人	(46.2%)	最低 0.172、最高 0.832
			存在感知	12人	(30.8%)	存在は確認できるが数値としては定量できない
			不検出	9人	(23.0%)	検出限界以下

福島の子どもの甲状腺がんが調査開始後早い時期に発見されたことが福島原発事故による被ばくと関係があるかどうかはまだ定かではありません。

しかし、「海藻類を多く摂取している日本人は甲状腺への放射性ヨウ素吸収が少ないはずで影響は少ないかもしれない」というのはもしかしたら当てはまらないかもしれない・・・。

そもそも、これまで子どもの甲状腺の疾患は少

なく、調べられていないとのこと。ようやく福島をはじめに調査がはじまり、日本の子どもの甲状腺の状態のベースラインがわかってきたばかりと考えるのが妥当だと思われます。

今回、常総生協の中間結果と

- ①福島の子どもたちの甲状腺エコー検査の累計
- ②環境省が調査していた対照区（弘前市・甲府市・長崎市）のデータ（3月末に発表）を比較してみます。

○甲状腺エコー検査結果：福島・常総生協・対象区との比較

甲状腺エコー検査	地域	福島県民調査（累計）		常総生協		対照区（弘前・甲府・長崎）		
	検査人数	13万3,089人		76人		4,365人		
	嚢胞・結節を認めた割合	42%		20%		58%		
	A1判定	結節や嚢胞を認めなかったもの	77,497人	(58.2%)	60人	(80.8%)	1,852人	(42.4%)
	A2判定	5mm以下の結節、20mm以下の嚢胞を認めたもの	54,857人	(41.2%)	14人	(18.4%)	2,469人	(56.6%)
B判定	5.1mm以上の結節、20.1mm以上の嚢胞を認めたもの	734人	(0.55%)	1人	(1.4%)	44人	(1.0%)	
C判定	甲状腺の状態から判断して直ちに二次検査を要するもの	1人	(0.0001%)	(1人)	(1.4%)	0人	(0.0%)	

○嚢胞・結節を認めたものの割合

甲状腺エコー検査	嚢胞・結節を認めたもの		福島県民調査		常総生協	対照区（弘前・甲府・長崎）
			H23年度	H24年度		
	結節を認めた割合	5.1mm以上	0.48%	0.57%	1.4%	1.0%
		5.0mm以下	0.58%	0.43%	0.0%	0.6%
嚢胞を認めた割合	20.1mm以上	0.003%	0.006%	0.0%	0.0%	
	20.0mm以下	35.11%	43.63%	18.4%	56.9%	

常総生協の検査はわずかで、統計的に比較できるほど有意ではありません。

福島の子どもたちにしろ、まだ検査が始まったばかりで、全員の検診は今年度いっぱいかかる予定です。これから毎年、慎重にその推移を検査し、早期発見・早期治療ができる体制を整えることが必要です。

しかし、福島の子も3年に1回とされ、まして周辺の関東域の子どもたちはほぼ「無視」されています。

政府は、福島のみならず、関東・東北全域、とくにホットスポットエリアの子どもたちの健康調査を実施すべきです。

国がやればすぐに何千人、何万人と調査できるのに、国は対照区だけ調べて、福島の子どもさえ福島県の調査に丸投げ、「子ども被災者支援法」の地域指定による健康調査も関東・東北は「考えてもいない」。

チェルノブイリ事故当時のソ連に比して、日本は資金も先端技術も充分にあります。

今、日本国民が不幸にも被ばくした中で、隠されてきた低線量被ばくによる健康影響を十分な配慮と措置で、世界にその結果と対策を示して教訓とできるはずで

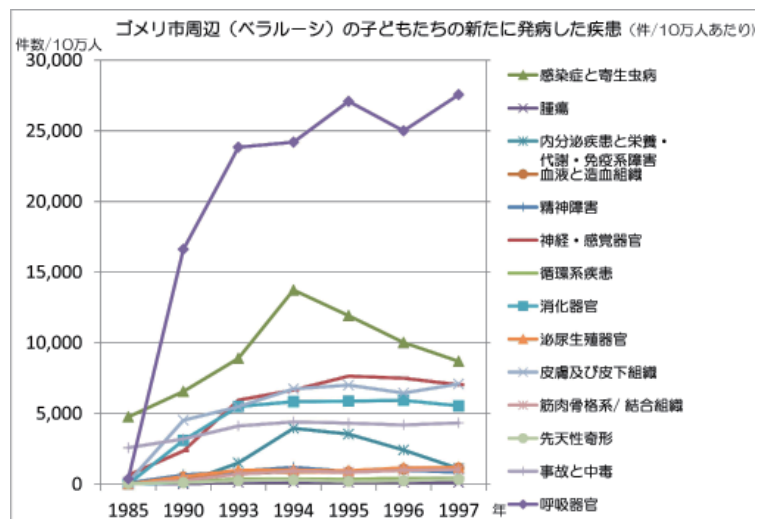
なにより国が「国策」として推進してきた原発による被害である以上、被ばく者とりわけ子どもたちへの健康調査・診療は国家の責任で実施すべきことです。

国の財政の2割を投じてでも国家の責任において子どもたちの健康管理をしているウクライナなどのチェルノブイリ法に学ぶべきです。

生協の脱原発くらし見直し委員会のチェルノブイリの健康影響の翻訳で示されたように、放射線の健康影響は甲状腺にかぎらず、さまざまな病気を引き起こすことも示されています。

あらためて、総合的な検診、対策を実施することを国に要請しましょう！放射能から子どもを守ろう関東ネットによる国会への要請署名は、まだ1000名に達していません。

どうか組合員自身のみならず知人友人にもお声かけ頂きますようお願いいたします。



脱原発くらし見直し委員会発行パンフより

人が人を傷つけあわないこと、平和であること・・・それは私たちの安心のくらしの原点
ナチ強制収容所テレジンの子どもたち展・連続講座開催中
常総生協「平和の集い」も実行委員会準備中！

常総生協も協賛

テレジンの子どもたち

連続講座、パネル展示が開催されています！

【連続講座（2回目）】

土浦出身の林幸子さんによるお話し会

4/13（土）14時～16時

「テレジンの子どもたちのその後」

戦後、子どもたちはどう生きたか？

土浦一高 旧本館復元教室

小林さんによる「テレジンの子どもたちから」↑



【パネル展示】

「生きのびた少年ジョージの物語」

「プラハ・テレジン・アウシュヴィッツ」

5/8（水）～12（日）9時半～17時

つくば市民ギャラリー（入場無料）

5/11（土）14時～16時

石岡史子さんと市民ギャラリー内でお話し会

「生きるための優しさと強さを育む」

石岡さん訳による「ハンナのかばん アウシュヴィッツからのメッセージ」↑



テレジンとは

「テレジンは、第2次世界大戦中のナチス・ドイツの強制収容所のひとつでチェコにありました。

テレジン収容所には15,000人のユダヤ人の子ども達がいきました。子ども達は10歳になると家族から離され、「男の子の家」と「女の子の家」で暮らさねばなりませんでした。

寂しさや空腹ときびしい労働、死への恐怖に怯えながらも、そこでは子ども達の自治会活動が行われ、雑誌が発行され、文学や絵画の授業が行われ、音楽会や子どものオペラ「ブルンジパール」も開催されました。

もちろん、ナチスに隠れての”秘密の学校”でしたが、勇気ある大人たちの存在が子どもたちを人間として大きく育てました。

しかし、子ども達のほとんどはアウシュヴィッツに送られ、ガス室で殺されたのです。生き残ったのはわずか100人でした。」（案内チラシより）

5/28～6/2 常総生協「平和の集い」も準備中です！

昨年秋に柏の陸軍飛行場跡、幻の戦闘機「秋水」を訪ねる企画を開催した「平和の集い」委員会です！

今年春、「平和の集い」を開催します。会場はテレジンと同じ、つくば市民ギャラリーです。

今年の「平和の集い」は、○写真展示 ○組合員の戦争体験者からお話しを聞く会 ○家族の戦争の遺品などを予定しています。ただいま委員会で準備を重ねています。ぜひおいでください！

期間中の会場お手伝いも応援よろしくお願いします！

4/21 被ばくから2年、どう生きる？茨城・福島のわたしたち
あきらめない、忘れない、声をあげよう 4.21 ディスカッション

【日時】2013年4月21日（日）14時～16時半

【場所】つくば市・春日交流センター・大ホール

（つくば市春日2丁目36-1）

【2つの問題提起】

○茨城から 小川仙月さん

「被ばくを「なかつたこと」にする人々、

福島を忘れようとする人々」

○福島から 渡辺馨さん

福島共同診療所・開院から5ヶ月

【ディスカッション】

提案を受けて、会場ディスカッション

- ・放射能汚染から子どもたちを守ろう@、各地区のみなさんから
- ・生協から
- ・放射線測定活動から
- ・農民から
- ・職場から
- ・福島いわきから
- ・毎週の金曜行動から



この集いは、チェルノブイリ事故以来茨城県南部で、長く原発をなくす活動をされてきた「たんぼぼ会」のみなさんが呼びかけてくださいました。常総組合員の江口さんや小山さんが呼びかけ人に入っています。